

## 一般会計・特別会計・事業会計の決算状況

千円単位で四捨五入しているため、合計額が一致しない場合があります。

市のお金って、  
どうなってるの!?

会計名	収入	支出	差引残額	実質収支額
一般会計	411億 1,666万円	398億 111万円	13億 1,555万円	12億 8,979万円
特別会計	215億 622万円	210億 1,292万円	4億 9,330万円	4億 8,858万円
①国民健康保険事業勘定	95億 8,334万円	92億 7,755万円	3億 578万円	3億 578万円
②後期高齢者医療費	9億 1,305万円	8億 9,390万円	1,914万円	1,914万円
③介護保険事業勘定	82億 4,259万円	81億 3,445万円	1億 814万円	1億 814万円
④と畜場及び食肉市場費	2億 1,521万円	2億 1,521万円	—	—
⑤青果物地方卸売市場費	2,971万円	2,971万円	—	—
⑥下水道事業費	24億 1,865万円	24億 1,275万円	590万円	118万円
⑦農業集落排水事業費	3,474万円	3,474万円	—	—
⑧物品調達費	2,328万円	1,425万円	903万円	903万円
⑨南原財産区費	1,869万円	17万円	1,851万円	1,851万円
⑩三沢東部財産区費	2,697万円	18万円	2,679万円	2,679万円
合計	626億 2,288万円	608億 1,402万円	18億 886万円	17億 7,837万円

会計名	収入	支出	差引額	
水道事業	収益的収支	19億 7,219万円	15億 9,226万円	3億 7,993万円
	資本的収支	7,774万円	4億 6,459万円	-3億 8,685万円
病院事業	収益的収支	74億 9,754万円	75億 2,736万円	-2,982万円
	資本的収支	4億 268万円	5億 7,926万円	-1億 7,658万円

# 平成29年度の 決算を報告します

市民の皆さんに納めていただいた税金や、  
国・県から交付されるお金がどのように使わ  
れたのかをお知らせします。

■問合せ／

決算報告について…会計課審査出納係

財政状況について…財政課財政係

☎(22) 51111

## 一般会計の状況

一般会計の歳入は411億1666万円(対前年度比1.9%の増)、歳出は398億111万円(同2.5%の増)となり、差引額が13億1555万円となりました。

このうち、平成29年度から平成30年度に2577万円を繰り越したため、実質収支額はこの額を除いた12億8979万円となりました。

**歳入 約411億円**

歳入の主な増減の内訳をみると、市税は、法人市民税や固定資産税などが増加し、地方交付税は、除排雪経費が増額となったことから特別交付税が増加したものの、普通交付税が減少しました。県支出金は、牛舎等の整備事業に対する民間事業者への補助や道の駅米沢の整備事業などで増加しました。

市債は、道の駅米沢の整備事業や天元台ロープウェイ搬送等交換工事などで増加しました。寄附金は、ふるさと応援寄附金が返礼品の見直しなどの影響で大幅に減少し、その他の歳入は、財政調整基金や産業用地基金からの繰入金などにより増加しました。

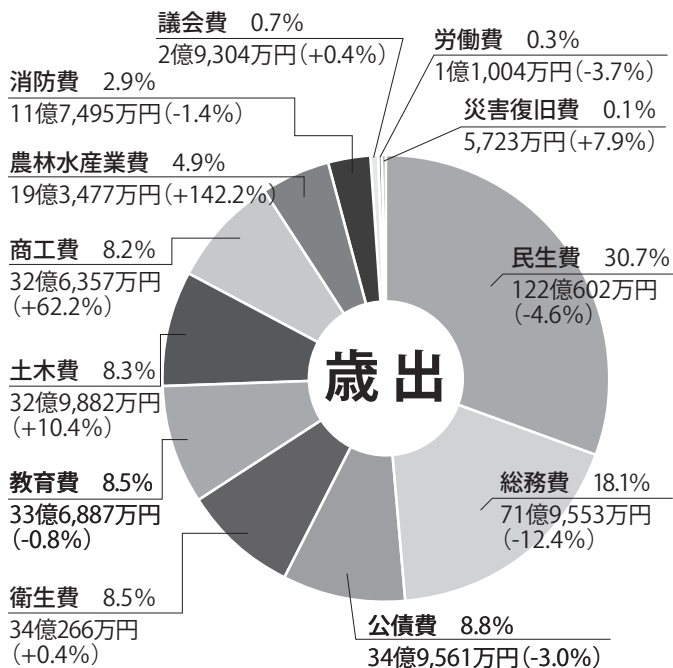
**歳出 約398億円**

歳出の主な増減の内訳をみると、牛舎等の整備事業に対する民間事業者への補助の増などで農林水産業費が、道の駅米沢の整備事業費の増などで商工費がそれぞれ増加しました。

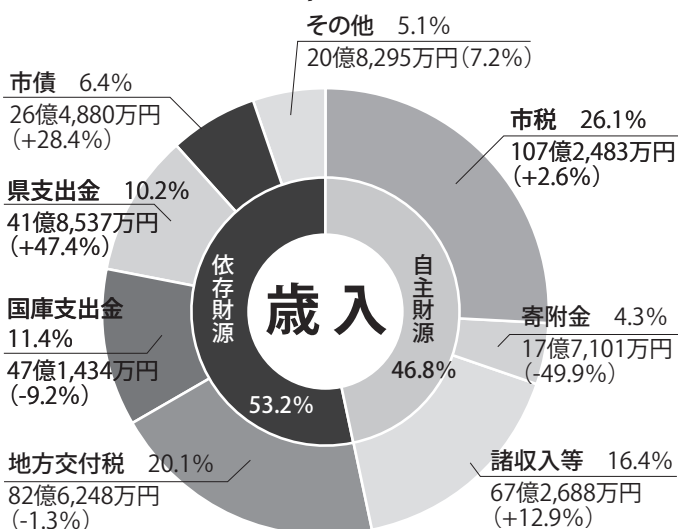
また、ふるさと応援寄附金制度推進事業費の減などで総務費が、臨時福祉給付金給付事業費の減などで民生費がそれぞれ減少しました。

千円単位で四捨五入しているため、合計額が一致しない場合があります。

**歳出額** 398億111万円 (+2.5%)



**歳入額** 411億1,666万円 (+1.9%)



市民1人当たりによると

歳入：49万5,006円  
歳出：47万9,168円

※米沢市人口 83,063人  
(H30.4.1 現在) で算出

項目	金額	項目	金額
市民税	43億8,403万円	鉱産税	14万円
固定資産税	50億6,595万円	入湯税	2,917万円
軽自動車税	2億3,821万円	都市計画税	4億3,448万円
市たばこ税	5億7,285万円		

〇〇費って何のこと？

- 民生費 子育て支援、福祉、医療給付などの経費
- 総務費 市の全体的な管理のための経費
- 公債費 市の借金(市債)返済のための経費
- 衛生費 疾病予防や健康増進、環境保全などの経費
- 教育費 学校、生涯学習、スポーツ振興などの経費
- 土木費 公園や道路の整備、除排雪などの経費
- 農工商費 商工業の振興、観光事業などの経費
- 農林水産業費 農業や林業の振興などの経費
- 消防費 消防・救急業務などへの経費
- 議会費 市議会運営のための経費
- 労働費 雇用対策や勤労者福祉などの経費
- 災害復旧費 自然災害の復旧工事などの経費

用語の解説



自主財源と依存財源って？

自主財源とは市が自ら調達することができる収入のことで、市税、基金などからの繰入金、保育料などの分担金・負担金、施設の使用料・手数料などがあります。これに対し、国や県の意思により定められた額を交付されたり、割り当てられたりする収入のことを依存財源といいます。依存財源には地方交付税、国庫支出金、県支出金などがあります。

市債の平成29年度末残高は、前年度に比べ、一般・特別・企業会計全体で2.7%減少しましたが、今後、市庁舎・市立病院建替えの多額の市債発行が予定されています。将来世代に過度な負担を強いることのないよう適正な市債管理に引き続き努める必要があります。最後に、今後の財政運営においては、地方自治の本旨である「最小の経費で最大の効果を挙げる」ことを旨として、財政構造の基盤強化と健全化を図り、市政の発展と市民福祉の向上が更に推進されるよう要望します。

監査委員の審査意見

平成29年度決算審査の結果、各会計の決算及び附属書類並びに基金の運用状況を示す書類は法令に準拠して処理されており、かつ、計数は正確であり、予算の執行についても概ね適正であると認められました。

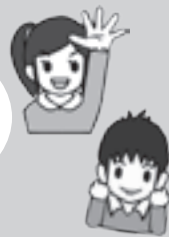
平成29年度決算額は、一般会計において、歳入・歳出とも前年度に比べ増加しました。修正実質単年度収支(当該年度の実質収支から前年度の実質収支を差し引いた単年度収支に、基金の積立・取崩などを加減したものは、3年ぶりに3億6689万円の赤字となりましたが、これは市庁舎建替え事業に対応するために9億1015万円の基金積立を行ったためで、その分を考慮すると5億4326万円のプラスとなっております。

市の財政状況はどうかの!?

# 財政指標で読み解く 米沢市の財政状況



本市の財政状況を  
様々な指標で分析して  
みましょう!



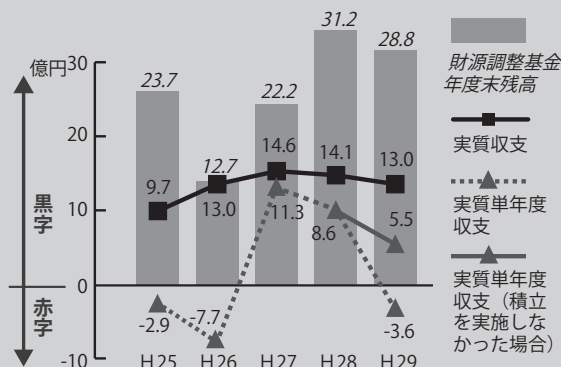
## 1 収支の推移と財源調整基金の年度末残高

**実質単年度収支は約 3.6 億円のマイナス、市庁舎整備基金へ約 9.1 億円の積立を実施しなかった場合は約 5.5 億円のプラスに財政調整基金の年度末残高は約 28.8 億円**

実質収支……歳入歳出の差引から翌年度に繰り越して実施する事業のための財源を除いたもの

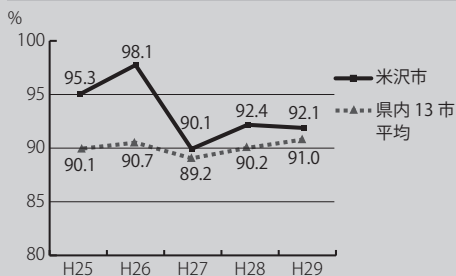
実質単年度収支…実質収支から前年度繰越金や財源調整のための基金(貯金)への積立・取崩しなどを除いたその年度のみ収支バランスを表すもの

財源調整基金…年度間の財源の不均衡を調整するための貯金



## 2 経常収支比率

**県内 13 市と比べてやや高い数値に**



県内 13 市平均と比べてやや高い比率に留まりました。

経常収支比率…市税や普通交付税など毎年度入る収入に対して、人件費や社会保障費、借入返済金など必ず払わなければならない経費が占める割合

## 3 市債の年度末残高

**市債残高は減少傾向に**



総額はあまり変わらないけど、特例債が増えているわ。

市債とは市の長期借入金のことです。全体の残高はここ数年横ばいとなっています。建設事業債の残高は年々減少していますが、地方全体の財源不足を補う臨時財政対策債など特例債の残高が増加しています。

## 4 健全化判断比率

**全ての項目で基準を下回っています**

実質赤字比率……一般会計などの赤字の割合

連結実質赤字比率…全ての会計を合わせた赤字の割合

実質公債費比率……借入金等の返済額の割合

将来負担比率……将来にわたって支払う借入金等の負債の割合

項目	本市の数値		早期健全化基準	財政再生基準	県内 13 市平均
	H28	H29			
実質赤字比率	赤字額なし		12.51	20.00	—
連結実質赤字比率	赤字額なし		17.51	30.00	—
実質公債費比率	9.6	8.6	25.0	35.0	9.2
将来負担比率	63.0	40.5	350.0	—	71.3

地方公共団体には、財政の健全度を客観的に表す 4 つの指標を公表することが義務付けられています。これらの指標にはそれぞれ 2 段階に基準(財政再生基準・早期健全化基準)が定められています。

## 本市の財政状況

解説します

平成 26 年度の財政状況の悪化を受け、平成 27 年度から各種事務事業の更なる見直しや職員給与の独自減額など、財政健全化に向けた取り組みを継続して行ってきました。

その結果、平成 29 年度の実質単年度収支は約 3.6 億円のマイナスとなったものの、これは市庁舎建替えの後年度負担を軽減するために、市庁舎整備基金に約 9.1 億円を積み立てたためであり、この積立を実施しなかった場合には、実質単年度収支は約 5.5 億円のプラスとなっていたものです。

経常収支比率は 92.1% と、前年度よりも改善し、財政の健全度を客観的に表す指標である健全化判断比率については、全ての項目で基準を下回っています。





# 米沢市財政健全化計画の進捗状況についてお知らせします

■問合せ/財政課財政係

## 平成 29 年度計画額と決算額の比較 (一般財源ベース)

区分	計画額	決算額	差	
財政健全化 施策を講じる 前の収支額	収入① 217.3 億円	225.7 億円	8.4 億円	
	支出② 227.9 億円	242.7 億円	14.8 億円	
	収支差引額③=①-② △ 10.6 億円	△ 17.0 億円	△ 6.4 億円	
財政健全化 施策の 効果額	内訳			
	税金等の確保	0.2 億円	1.2 億円	1.0 億円
	ふるさと応援基金 取崩し	2.6 億円	6.0 億円	3.4 億円
	その他の収入確保	0.5 億円	0.7 億円	0.2 億円
	人件費の抑制	3.4 億円	2.4 億円	△ 1.0 億円
	他会計負担金等の 抑制	3.7 億円	1.7 億円	△ 2.0 億円
	その他	1.3 億円	1.4 億円	0.1 億円
	効果額合計④	11.7 億円	13.4 億円	1.7 億円
	効果額反映後の収支差引額⑤=③+④	1.1 億円	△ 3.6 億円	△ 4.7 億円
	※市庁舎整備の積立を実施しなかった場合	※ 1.1 億円	※ 5.5 億円	※ 4.4 億円

市税や地方交付税など何にでも使えるお金のことを一般財源といい、国庫の補助金や保育所の使用料など特定の事業のために入るお金を特定財源といいます。この表は特定財源を除いて作成しているため、決算額とは一致しません。収入①は財源調整基金からの繰入と前年度繰越金を除き、支出②は財源調整基金への積立と繰上償還金を除いた、その年度のみ収支を表しています。

本市では、平成26年度の財政状況の悪化を受け、早急な収支改善を実現し、持続可能な財政運営への転換を目指すため、平成28年度から平成32年度までを計画期間とする「米沢市財政健全化計画」を平成28年2月に策定しました。その財政健全化計画の進捗状況についてお知らせします。

## 財政健全化に向けた目標と平成 29 年度決算との比較

目標	計画	決算	差	
実質単年度収支	平成 29 年度	1.1 億円	△ 3.6 億円	△ 4.7 億円
	平成 27 ~ 29 年度累計	2.1 億円	16.2 億円	14.1 億円
財源調整基金 の年度末残高	財政調整基金	17.8 億円	17.3 億円	△ 0.5 億円
	公共施設等整備基金	0.0 億円	11.5 億円	11.5 億円
	合計	17.8 億円	28.8 億円	11.0 億円
経常収支比率	95.2%	92.1%	△ 3.1%	

実質単年度収支…前年度繰越金や財源調整基金(貯金)の積立・取崩しなどを除いたその年度のみ収支バランス  
経常収支比率…毎年度入る収入に対して、人件費など必ず支払わなければならない経費が占める割合

目標 1

### 実質単年度収支の黒字化

実質単年度収支は約 3.6 億円のマイナスとなりましたが、市庁舎整備基金への積立を実施しなかった場合の実質単年度収支は約 5.5 億円のプラスとなり、計画を 4.4 億円上回る結果になりました。平成 27 年度以降の累計では、計画を約 14.1 億円上回る結果になりました。

目標 2

### 財源調整基金残高(平成 32 年度末)は 20 億円以上

財源調整基金残高は約 28.8 億円となり、計画を約 11 億円上回る結果になりました。

目標 3

### 経常収支比率は特殊要因を除き 95%以下

経常収支比率は 92.1%となり、計画より 3.1 ポイント改善する結果になりました。



## 平成 29 年度の概要

財政健全化施策を講じる前の収支額は、個人、法人所得の増加などにより市税が大幅に増加したものの、市庁舎建替への後年度負担を軽減するため 9・1 億円の基金積立を行ったことから、赤字額が計画額よりも 6・4 億円拡大しました。

財政健全化施策のふるさと応援寄附金は、返礼品費や事務費を除いた額を基金に積み立て、翌年度以降に取り崩して使っています。平成 27 年度以降、寄附金額は計画の値よりも上回り、平成 29 年度分までの累計で 23・7 億円を積み立ててきたため、取崩し額を計画の 2・6 億円から 6 億円に増額しました。ふるさと応援基金取崩し以外のその他の施策の効果額を合わせると、効果額の合計は 13・4 億円となり計画額よりも 1・7 億円増加しました。

この結果、財政健全化施策の効果額反映後の収支差引額は 3・6 億円の赤字となり計画額よりも 4・7 億円減少しました。しかし、後年度負担を軽減するための市庁舎整備基金への積立を実施しなければ収支差引額は 5・5 億円の黒字となるため、

## 今後について

計画額よりも 4・4 億円改善したことになります。

平成 29 年度は、市庁舎整備基金に積立を行ったことから、実質単年度収支は赤字となりました。しかし、実質的には、市税が大幅に増加したほか、市税収納率の向上やふるさと応援寄附金の確保などの健全化施策の成果が表れたことから、平成 27 年度以降累計の実質単年度収支は計画を大きく上回っており、全ての目標で計画の値よりも改善させることができました。

そのような中、施策効果額で最も大きな割合を占めるふるさと応援寄附金については、国からの指導もあり昨年 7 月に返礼品等の見直しを行ったことから大幅に減少し、今後はこれまでのような寄附金額が見込めない状況にあります。さらに、今後は市庁舎と市立病院の建替え、統合中学校整備など大規模事業の実施が控えています。

これらの事業に対応するためにも、財政健全化計画を着実に実施し、更なる収支改善を図り、中長期的に安定した財政運営に努めていきます。